

ほかほかだより

2026.5.1

ひかり幼稚園では

- ・一人ひとりの個性を大切にし、自分を大切にできる心を育む
- ・友だちに思いを伝え認め合える

上記のような豊かな仲間関係を築いていくため、“人権を大切にする保育・教育(人権教育)”に取り組んでいます。

子どもたちはたくさんの人との出会いや触れ合いを通して、様々な文化を知り、体験を重ねています。その中で、ありのままの自分を見つめ、他者(違い)を認め『自分のことが大切だから、みんなも大切』と感じてほしいと考えています。そしてこれから先、様々な人と出会ったときに『見た目や先入観で人を判断せず、相手を受け入れられる心が育ってほしい』と願っています。

『ほかほかだより』は人権教育の取り組み内容をお知らせします。お家の方と私たちが同じ思いをもって、子育てしていけるように願っています。

今回はこいのぼりの造形あそびをして、端午の節句について話しました。

こどもの日の由来

「端午の節句」は古代中国の厄払い行事が由来で、病気や災厄を避けるための菖蒲(しょうぶ)を用いた風習が日本に伝わったものです。江戸時代以降「菖蒲」が「尚武(武道を尊ぶこと)」に通じることから、男の子の健やかな成長と立身出世を願う行事となりました。

現在はすべての子どもたちの幸せを願う日となる大切な日として親しまれています。



3歳児は ねらい：こどもの日の由来を知る。

こどもの日に飾っている「こいのぼり」は鯉の滝登りのように「子どもたちがすくすくと育つように」と言われていることを伝えました。また柏餅やちまきなどを食べる由来も聞きました。

3歳児は、
こいのぼりのうろこの色を
塗り、のりで貼りました



4歳児は ねらい：こどもの日の由来や意味に触れ、自分が大切にされている存在であることを知る。

こいのぼりが飾られるようになった由来や菖蒲湯に入る理由、柏餅に込められた思いなどを知り、周りの人から大切にされていると感ずることができる話し合いをしました。



4歳児は、
紙を輪っかにしてうろこを表現し、貼り付けました。

5歳児は ねらい：こどもの日の由来や意味を理解し、互いの違いを認め合ったり、周りへの感謝の気持ちをもつ。

鯉は滝を登って龍になる力強さがあり、子どもたちがすくすくと育つよう願いが込められていることや、柏餅の葉やちまきの笹、菖蒲湯に意味があることを知りました。みんなが大切にされている存在だということを知り、違いを認め合っていけるような話をしました

5歳児は、
うろこを編み込みで
作りました。



「こいのぼり」の歌を歌ったり、絵本を読んだりしながらこいのぼりやその由来などに親しみをもっています。こいのぼりの鯉の大きさ等は、“お父さんは大きい”“お母さんは赤色”等と言われる事もありますが、身体の大きさ・好みの色等、一人ひとりに違いがある事に気づく機会にしています。



子どもたちに話をした内容をいくつか紹介します。

こいのぼりの他にも…

- ・「しょうぶ(菖蒲)」強いにおいがあるので「魔除け」病気やケガから体を守る意味がある。
- ・「柏餅の葉」落ちることがなく、枯れない葉である。強い葉、柏の様に強くなって欲しいという意味や、健やかな成長を願うという意味もある。